

令和7年度 飯塚市立二瀬中学校「生活のきまり」

1 「生活のきまり」の基本的な考え方

- 生徒一人ひとりの「人権や健康に配慮したきまり」であること
- 生徒一人ひとりの「自分で考え、判断し、行動した結果は自分で受け止めようとする力を育てるきまり」であること
- 守るではなく「考える」ことで生徒一人ひとりの「自律を促すきまり」であること

2 自律を促す3つの場面

中学校における「生活のきまり」とは次の3つの場面に適した姿になるよう生徒自ら（と保護者）が判断して、生徒が自律する力を育てるための手引きになることが望ましいと考えます。もちろん判断に迷ったときは学校に相談してください。一緒に考えていきましょう。

A 学習・部活動の場面

：教室内の座学、実技教科の活動、学校行事、部活動の練習など

B 儀式的行事・儀式的場面

：入学・卒業・始業・終業・修了式等の儀式的行事、冠婚葬祭など

C 対外的行事の場面

：体験学習、体験入学、入学試験、部活動の大会・練習試合、コンクールなど

以下の「生活のきまり」では主にAの場面で適した姿になるように守ってほしいことを示しています。また、B, Cの場面でも適した姿になるような「アドバイス」も示しています。

この「生活のきまり」は生徒・学校・社会の状況に応じて、生徒・保護者・教職員と一緒に毎年見直しをします。

3 頭髪などのきまり

(1) 頭髪

- ・前髪は目にかからないようにしましょう。目にかかる場合はピンでとめたり、左右にわけたりしましょう。
- ・髪が肩につくくらいになったらゴムでまとめましょう。体操帽子をかぶるときはきちんとかぶれるようにゴムでまとめましょう。

(2) その他

- ・髪を染めたり、色を抜いたり、パーマをかけたり、整髪料を使用したりしません。
- ・特異な髪形（極端に左右が非対称である、ラインを入れる、編み込みをする）にはしません。
- ・眉の形や濃さが変わってしまうような整え方はしません。

【アドバイス】

- ・BやCの場面では、ゴムやピンは目立たない色にしましょう。わからない場合は黒色のゴムやピンを使いましょう。
- ・髪型や髪色、眉、耳は自然な状態にしましょう。

4 服装などのきまり

(1) 制服

- ・指定の販売店で購入した、「標準服（ブレザー、スラックス、スカート、長袖ポロシャツ、半袖ポロシャツ）」を着用しましょう。

①ブレザー + ポロシャツ + スラックス

②ブレザー + ポロシャツ + スカート

- ・学習の場に適した制服の着こなしをしましょう。
- ・気候にあわせて、ブレザーの着脱、長袖か半袖のポロシャツは調整しましょう。
- ・校内では左胸ポケット（の位置）に名札をつけましょう。
- ・ベルトは標準服に適したものを着用しましょう。
- ・スカートの丈はひざにかかるようにしましょう。

(2) ネクタイ・リボン

- ・ネクタイやリボンを着用する場合は、指定の販売店で購入したものを付けましょう。ネクタイやリボンの着用や組み合わせ方は、自己で判断しましょう。

①緑色のネクタイ、緑色のリボン

②紫色のネクタイ、紫色のリボン

③灰色のネクタイ、灰色のリボン

- ・ネクタイやリボンを着用する場合は、標準服（ブレザー、スラックス、スカート、長袖ポロシャツ、半袖ポロシャツ）のいずれかの組み合わせに、ネクタイもしくはリボンを合わせましょう。
- ・ネクタイやリボンを着用する場合は、ポロシャツのボタンをすべて止めて、付けましょう。

(3) その他

- ・入学式・卒業式・1学期始業式・2学期終業式、3学期始業式・修了式ではブレザーを着用しましょう
- ・袖を大きくまくったり、ポロシャツのボタンを2つ以上開けたり、裾を出したりしません。
- ・ピアスやネックレス、ブレスレット、ミサンガのような装飾品は身につけません。

【アドバイス】

- ・BやCの場面では、ブレザーの上のボタン1つ、ポロシャツのボタンは全て止めるのが礼儀です。また、ネクタイやリボンの着脱は、自己で判断をしましょう。

5 その他のきまり

(1) 防寒着・防寒具など

- ①コート、ウィンドブレーカー、マフラー、カーディガン、ネックウォーマー、ダウンジャケット、手袋は基本的には登下校時など校外で着用するので、C（対外的行事）の場面でも適したものを選びましょう。
- ②ストッキング、タイツ、レギンスは無地の黒色、白色、ベージュ色を着用しましょう。
- ③ポロシャツの上に着用するVネックセーター、ベスト、カーディガンは無地の黒色・白色・紺色・灰色・茶色を選びましょう。

【アドバイス】

- ・防寒着や防寒具は、室内に出入りする時に着脱するのがマナーです。教室で着脱しましょう。

(2) 衣替えなど

- ①制服の移行期間、防寒着・防寒具の使用期間などは指定しないので保護者の方とも相談して気候や体調に応じた服装を選びましょう。

(3) 靴、靴下、かばん

- ①体育実技の授業や部活動にも対応したローカットの運動靴で通学しましょう。色やデザインなどの指定はありませんが、価格やC（対外的行事）の場面でも適しているかなどを保護者の方とも相談して選びましょう。
- ②校内では学年ごとに黄（1年生）、緑（2年生）、青（3年生）の上靴を、体育館では指定のシューズを履きましょう。
- ③靴下は黒色、白色、紺色、灰色、茶色の無地（ワンポイント可）で、ひざ下までのものを選びましょう。
- ④通学には、「学校推奨のバッグ」か「黒を基調とする配色のリュックタイプで両手がつかえる（メーカーのロゴやラインはできるだけ目立たない）バッグ」を使いましょう。部活動で使用するバッグは各部で確認しましょう。

【アドバイス】

- ・BやCの場面の靴下は、くるぶしが見えるようなスニーカーソックスではなく、ふくらはぎまでかかる靴下を選ぶのが礼儀です。
- ・かばんにキーホルダーなどを付ける際は、かばんをロッカーに収納した時に邪魔にならない物にしましょう。また、BやCの場面では、持ち物についても華美でないものを選ぶのがマナーです。その観点から、バッグにキーホルダーなどを付けることについては、その場に適しているかどうかを判断しましょう。